

研究主題 分かる喜びを実感し、適切に表現する力を高める国語科学習指導のあり方
ー「書くこと」の単元における学習指導法の工夫を通してー

日立市立滑川中学校 橋本 美詠子

1 はじめに

(1) 学習指導要領から

学習指導要領においては、「生きる力」の教育理念の共有の必要性を強調するとともに、共有に当たって、「コミュニケーションや感性・情緒、知的活動の基盤である言語に関する能力」の育成が、重視されている。言葉の力が衰え、人間関係が希薄になっている現代の状況で、言語に関する能力を育てることは必要不可欠である。そのため、国語科の各領域において、基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに、発達の段階に応じて、発表、討論、解説、論述、鑑賞、報告、批評といった言語活動を行う能力を培う必要があると述べられている。それを受けて、国語科においては、「国語による表現力と理解力を育成し、伝え合う力を高める」ことを基本的な目標として掲げている。「伝え合う力を高める」とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力を高めることである。そしてこのような言語能力は、相手、目的や意図、多様な場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりする力として育成することが大切である、と述べられている。これらのことから相手や目的に合わせて適切に表現する力の育成を図りたいと考え、本テーマを設定した。

(2) 本校の実態から

本校は日立市北部6号国道沿いにあり、海にもやや近い。生徒は人なつこく素直な生徒が多いが、家庭環境等個人差が大きく、だいぶ少なくなってきたが問題行動も見られる。学習意欲にも大きな差があり、授業に集中できない基礎学力に劣る生徒がみられる。昨年度の学力診断テストでは、現第3学年で県平均よりマイナス5.8ポイントの結果となり県平均をかなり下回っている。

こうした実態から本校では、学習意欲を高めることをねらい「基礎・基本の定着を図り、確かな学力を身につける学習指導のあり方」をテーマに学校課題研を進めている。そのテーマの具現化のための重点の一つに「授業力向上」を設定し、主体的に学習に取り組み、学びを楽しむ生徒の育成を目指している。そこで生徒の関心を引き出すような課題の工夫や生徒主体で課題解決に取り組めるような学習指導の工夫について研究しようと考えた。

2 研究のねらい

中学校第3学年「読み手を意識して効果的に表現しよう『日本文化のガイドブック』」、「説得力のある文章を書こう『監察・分析して論じよう 批評文』」における、学習意欲を引き出すための工夫や、読み手の思いや目的を意識させた学習指導の工夫を通して、生徒の意欲を高め、適切に表現する力がつく学習指導のあり方を明らかにする。

3 研究の仮説

- (1) 中学校第3学年「読み手を意識して効果的に表現しよう『日本文化のガイドブック』」、「説得力のある文章を書こう『監察・分析して論じよう 批評文』」において、生徒の関心を高める課題の工夫をすれば生徒は見通しをもち学習への意欲が高まるであろう。
- (2) 中学校第3学年「読み手を意識して効果的に表現しよう『日本文化のガイドブック』」、「説得力のある文章を書こう『監察・分析して論じよう 批評文』」において、読み手の思いや目的を意識させた学習指導の工夫をすれば、生徒の適切に表現する力が身につくであろう。

4 実践事例1「読み手を意識して効果的に表現しよう『日本文化のガイドブック』」

(1) 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「日本文化を伝えるガイドブックを作る」ことを位置づけた。京都に旅行をと考えている日本に住んでいる外国人生徒が身近に感じているALTに日本の魅力を伝えるガイドブックを編集する。読み手を意識してたくさんの情報の中から必要な情報を選び出し、わかりやすく編集することで「社会生活の中から課題を決め、自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること」(B 書くこと(1)ア)を確実に実現できるようにしている。

(2) 単元について

ア 生徒観(男子18名、女子18名 計36名)

「書くこと」に関する実態調査

3年3組36名調べ H26.6.5

	設 問	回 答
1	国語の学習は好きですか。	好き…12人 どちらかといえば好き…18人 どちらかといえば嫌い…4人 嫌い…2人

2	文章を書くのは好きですか。	好き… 7人 どちらかといえば好き… 10人 どちらかといえば嫌い… 12人 嫌い… 7人
3	2の答えの理由を書いてください。 (複数回答可)	「好き」「どちらかといえば好き」 ・書くことが好き… 6人 ・書くことが楽しい… 5人 ・すらすら書けるから… 3人・自分の考えを表現できるから… 2人 ・文章を考えるのがおもしろいから… 4人 「嫌い」「どちらかといえば嫌い」 ・書くことが浮かばない… 5人 ・文章を考えるのが難しい… 4人 ・漢字や言葉がわからない… 4人・めんどくさい… 4人 ・書く順序や構成が難しい… 3人 ・疲れるから… 2人
4	文章を書くときに困ったり迷ったりするのはどんな点ですか。(複数回答可)	・文章のまとめ方… 12人 ・書き出し… 6人 ・文字数… 5人 ・漢字や言葉… 4人 ・全体的に… 3人
5	文章を書くときに読む人のことを考えていますか。	・よく考える… 5人 ・どちらかといえば考える… 12人 ・どちらかといえば考えない… 17人 ・考えない… 2人

事前アンケートでは、「国語の学習は好きですか。」という問いに、肯定的な回答をした生徒が36人中30人いるが、「文章を書くこと」については36人中17人と肯定的な回答が減っている。「書くこと」に対する抵抗がある生徒が多い。また、表面的な書き表し方については多くの生徒が理解して書いているようだが、相手意識をもち、自分の思いや考えが明確に伝わるように意識している生徒は半数以下である。

生徒は2年生の時に調べて考えたことをレポートにまとめる学習をしてきた。この学習では普段の生活やメディアなどで見聞きすることからテーマを決め、調査し、事実や考えが明確に伝わるよう構成を工夫してレポートを書くことで伝達する力を育成することをねらいとしたものである。学習後に行った学力診断テストの結果では、1学年の時は「書くこと」の領域は県平均を上回っていたものが県平均(68.5)を下回った(63.4)。特に資料から読み取ったことから自分の考えを書く設問の正答率が低かった。資料を写すだけになってしまいがちなことが分かる。そこで、本単元では、調べたことを読み手にわかりやすく伝達するために構成や内容を工夫できるよう読み手を意識させたい。

イ 教材観

本教材は、学習指導要領「書くこと」B(1)ア「社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること」を受けている。京都を旅行しようとしている外国人に向けて日本文化を紹介するガイドブック作りを通して、伝えたい内容を読み手に合わせて効果的に表現することを目指している。

ウ 指導観

指導に当たっては6月上旬の修学旅行の経験に関連させることで、関心をもたせ、意欲的に取り組めるようにする。また、「誰に対して書くのか」「読み手の実態は」「構成や記述はどうするのか」を十分考えたり話し合ったりさせることで、書き手の意図や書く目的を明確にし内容的にも深みのあるものを作れるようにする。また、構成や記述の際は教師が例を示すことで目的や意図に応じた文章の構成や記述の仕方について考えさせ、表現を工夫して書かせる。さらに推敲の場を設定し、書いた文章を読み返したり互いに評価し合ったりして、構成や記述に関する表現をよりよいものにさせるとともに、他者の表現の仕方や考えに触れることによって自分の表現力や考えを広げさせる。

(3) 単元の目標

- 外国人に日本文化を伝えることに関心をもち、読み手を意識して効果的に表現しようとしている。
(関心・意欲・態度)
- 読み手に合わせて記事の内容や形式を工夫して書くことができる。
(書くこと)
- 既習の語句や表現・漢字を書く活動において的確に活用することができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(4) 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書 く 能 力	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項
外国人に日本文化を伝えることに 関心をもち、読み手を意識して効果 的に表現しようとしている。	読み手が関心をもちそうな内容を 選び、興味深い記事になるように 形式を工夫して書いている。	語句や漢字を正しく使って表 現している。

(5) 指導と評価・支援の計画（7時間取り扱い）

次	時	主な学習活動	評価規準
1	1	○学習目標を確認し、「はじめの一步」に取り組む。 ・学習活動の見通しをもつ。 ・「はじめの一步」に取り組み、わかりやすく興味を引く記事を書く練習をする。	・これまでの学習を思い出し、ガイドブック作りに向けての学習に見通しを立てようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
2	2 本時	○グループのテーマと各自の題材を決め、材料を集めて取捨選択する。 ・読み手が必要としている情報や知りたいことを話し合う。 ・グループテーマや個人の題材について話し合う。 ・個人の題材について思いついたことを絞りこむ。	・テーマと各自の題材を決め、材料を集めて取捨選択することができる。 (書く能力)
	3	○多様な情報を集め、文章の形式・表現方法を考える。 ・資料から情報を集める。 ・記事の形式・表現方法を選択したり考えたりする。	・多様な情報を集め整理することができる。 (書く能力)
	4	○記事を下書きする。 ・考えた記事の形式・表現方法で下書きをする。	・適切な文章形態を選択し、興味深い記事になるようわかりやすく効果的な形式・表現方法を使って下書きをしている。 (書く能力) ・語句や漢字を正しく使って表現している。
	5	○下書きを読み合い、表現を整えて清書する。 ・読みあって推敲したものをポイントに従って清書する。	・下書きを、推敲のポイントに従って清書している。 (書く能力)
	6	○清書を完成させるとともに表紙や目次などを作成し冊子にまとめる。 ・表紙や目次などの役割を分担し、冊子に仕上げる。	・冊子にまとめる活動に意欲的に取り組んでいる。 (書く能力)
	7	○完成したガイドブックを発表し、評価し合う。 ・読み手にとりわかりやすい記事の形式・表現方法か感想交流する。	・完成した作品について評価を行う中で学び得たことを記録し、今後の自分の表現活動に役立てようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)

(6) 本時の指導

ア 目標

- ・テーマと各自の題材を決め、材料を集めて取捨選択することができる。(書くこと)

イ 準備・資料

- ①掲示用作成例 ②ワークシート ③発表ボード ④教科書 ⑤百科事典などの資料

ウ 展開

学習活動・内容	支援の手立てと評価
1 本時の学習課題を知り、学習の見通しを持つ。 企画会議でテーマを決定しよう ①【一斉】 ・「学習の流れ」で確認する。 2 企画会議を開く。 (1) 読者について話し合う。②③【小グループ】 ・各自でアイデアを出し合い発表用ボードに書く。 (2) 話し合ったことを紹介し合う。【一斉】 ・発表ボードを黒板に掲示し、情報を共有す	・前時の学習をふり返り、記事を書くときのポイントを確認する。 ・「学習の流れ」を示し、本時はガイドブックを作るための話し合いや準備をすることを確かめる。 ・グループは4人を基本とする。 ○京都に旅行をしようと考えているALTの先生という読者設定ということを押さえ、修学旅行で外国人とふれあった際に感じた相手の特性や持っている情報、何が知りたいのかなどを考えるようにする。

る。

(3) グループのテーマについて話し合う。

④【小グループ】

〈予想されるテーマ〉

- ・日本の衣服・日本の住宅・日本の行事
- ・日本の祭り・日本の文学・日本の言葉
- ・日本の食事

(4) 個人で担当する題材を決定する。

【小グループ】

〈予想される題材〉

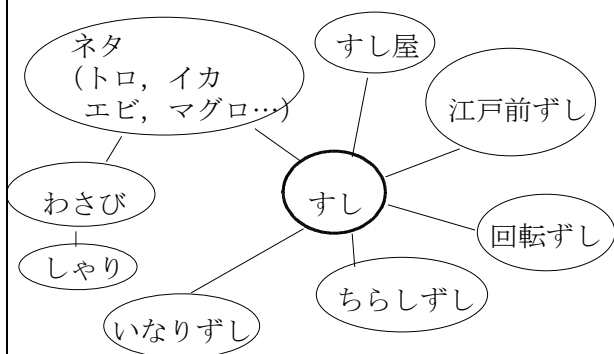
グループテーマ＝「日本の食事」の例

- ・すし・天ぷら・うなぎ・つけもの
- ・すき焼き・さしみ・納豆

3 自分の題材について思いつくことを書き出す。

【小グループ】

- ・個人題材「すし」の例



4 本時の学習のふり返しをし、次時のめあてを知る。

- ・反省や感想をノートのふり返し欄に書く。

【個人】

○話し合いで出た意見を共有し、より読み手意識を高めるようにする。

- ・教科書282ページの「話すこと・聞くこと」の題材例を見て、題材探しの参考にするよう助言する。

○常に伝える目的と相手を意識して話し合うよう助言する。

- ・思いついたままをすべて書き出すのではなく、読み手に合わせた観点をもって考えるように助言する。
- ・百科事典などの資料を提示し、本やインターネットで家庭で調べてもよいことを伝える。
- ・多様な材料を集めたうえで、3つ程度にしばり込み、具体的に何を伝えていくかを明確にするよう助言する。

◎ 担当の題材について思いついたことや調べたことを伝える目的・相手に即して3つ程度の内容に絞り込めたか。(書くこと)

(発表・観察・ワークシート)

△ 多様な材料を集めた上で3つ程度に絞り込み具体的に何を伝えていくのかを明確にするよう助言する。

□ 担当の題材について、具体的な内容を助言したり文章形態の選択についてのワークシートを使って記入したりする。

- ・ノートの振り返り欄に、本時の感想と評価を記入し、テーマについて考えられたか、3つ程度に内容を絞り込めたかを振り返らせる。

- ・本時の学習の取り組みを称賛し、次時の学習内容を予告する。

(7) 指導の実際

- ・単元の導入では、わかりやすく伝えるための既習の事項を振り返らせた。1年生での「図表を使って伝えよう『私の説明文』」での図表を取り入れることの効果、2年生での「調べて考えたことを伝えよう『言葉のレポート』」でのレポート形式の構成や調べたことと考察したことを明確にすることの大切さなどの学習をしたことを想起させ、それらを活用しながら今回の学習でのねらいをしっかりとおさえた。
- ・読み手を「京都旅行を考えているALTの先生」に設定し、生徒の日常生活と結びつけることで生徒の興味・関心を高めるようにした。
- ・グループでの話し合い活動を多く取り入れ、自分たちで作り上げるという意識をもたせた。話し合いがしやすく各自が役割を持てるよう、グループは4人で構成した。(資料1, 2)
- ・百科事典や参考になる図書を、司書の方に協力してもらいできるだけ集め、調べ学習が進めやすいようにした。
- ・「京都旅行を考えているALTの先生」という読み手の設定をしっかりと捉え、授業の冒頭で毎時間確認した。また、読み手の実態や目的、知りたいことなどを相手の立場に立って具体的に考え、話し合う時間をとった。お互いのグループで出た意見を全体で交流し、共有した。
- ・教師が完成例や構成、記述の例を示し、目的や意図に応じた文章の構成や記述の仕方について考えさせ、表現を工夫して書かせるようにした。
- ・発表の場を設定し書いた文章を読み返したり互いに評価しあったりして、他者の表現の仕方や考えに触れ自分の表現力や考えを広げられるようにした。(資料)

(資料1)

(授業の様子)
(資料2)

(資料3)



(8) 成果と課題

生徒の振り返りから (資料4)

(資料4) 〈単元後の振り返りカード〉

質問1 ガイドブック作りに進んで取り組みましたか。

◎ 21人 ○ 14人 △ 1人

質問2 読み手を意識して、記事にする内容や情報を選べましたか。

◎ 16人 ○ 18人 △ 2人

質問3 読み手にわかりやすい表現で記事に編集できましたか。

◎ 8人 ○ 23人 △ 4人 無答

質問4 読み手が興味を持ってくれる構成に工夫できましたか。

◎ 13人 ○ 18人 △ 4人

自由記述：・これからは読む人のことを考えて文を書こうと思った。

・人によって知りたいことは違うんだと思った。

・ガイドブックは興味を引くためにいろいろな工夫があるんだと思った。

・百科事典が難しく言葉をかえられなかった。

ガイドブック作りに高い関心を持って取り組んだことがうかがえる。また、今まであまり気にしていなかった読み手のことをはっきりと意識するようになった。しかし、実際の記事についてはわかりやすい表現で、構成を工夫して書く難しさを感じた生徒も多い。

編集して伝えよう 「日本文化のガイドブック」
学習を振り返ろう

三年 組 番 名前 ()

一 ガイドブック作りに進んで取り組みましたか。(◎○△)

二 読み手を意識して、記事にする内容や情報を選べましたか。(◎○△)

三 読み手にわかりやすい表現で記事に編集できましたか。(◎○△)

四 読み手が興味を持ってくれる構成に工夫できましたか。(◎○△)

自由記述：
これから読む人のことを考えて文を書こうと思った。
人によって知りたいことは違うんだと思った。
ガイドブックは興味を引くためにいろいろな工夫があるんだと思った。
百科事典が難しく言葉をかえられなかった。

単元の導入で、今までの学習を振り返り既習の事項を確認したことは生徒の関心を引きつけることに役立った。

読み手の設定を普段学校生活の中で接しているALTの先生にしたため、生徒はより課題を身近に感じ意欲を持って活動した。

グループ学習では4人という小グループだったので一人一人が十分活動できた。時間の確保のために、話し合いでは机を動かさず前の2人が椅子だけ後ろに向けて話すというやり方も取り入れた。書く作業がないときは効果的だがメモをとったり書いたりするときにやりづらさを感じた。

百科事典などの参考資料は図書室に十分あった。小学生も使える百科事典や難易度の高いものまであり生徒はそれらの違いや情報量に驚き意欲的に取り組んだ。一方で上記の生徒の振り返りのように語句の難しさに意欲を失ってしまった生徒もいた。一人一人の理解状況をしっかり把握して支援していかなくてはならない。

「ガイドブックの読み手がどんなことが知りたいのか」について話し合う時間を十分にとったことは、読み手意識を高め、ガイドブックの内容を考えるために参考になった。その後のガイドブック作りへの意欲も高まった。しかし、ALTの先生がどの程度の知識を持っているかについては調べる時間を設けられず曖昧になってしまった。相手に対する情報をより収集することに力を入れたい。

教師側で完成例や記述、構成の見本を提示したことで生徒は活動に対して具体的なイメージを持つことができて、書いたりまとめたりすることが苦手な生徒には効果的であった。しかし、ガイドブックの作成の手順については十分話し合いができず教師側からの作り方の提示になってしまい、生徒主体で考える活動にならなかったように思う。

また、修学旅行へ行ったばかりという生徒の実態を受けて、読み手を「京都に旅行を考えているALTの先生」としたが、生徒自身が京都について知識が豊富でなかったため難しく感じた生徒もいた。そして百科事典の難解な語句を言い換えるのに苦勞する生徒が多かった。グループでの学習より生かして生徒の協同的な学び合いを重視して取り組んでいきたい。

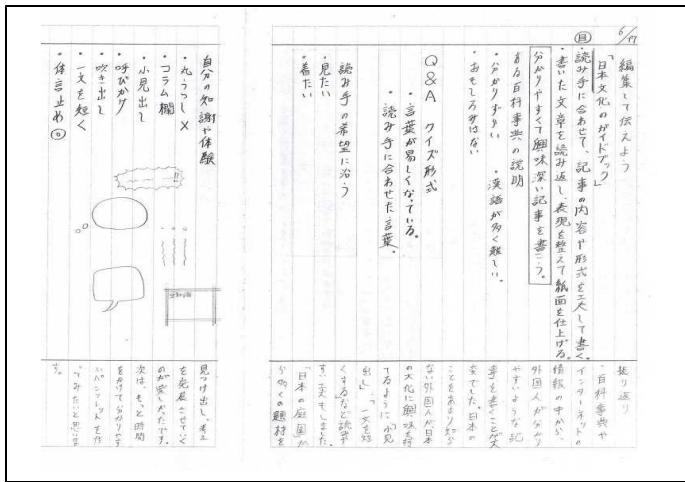
相互評価については、他のグループの作品を高い関心をもって読んでいた。しかし、相互評価させ

る観点が曖昧になってしまった。より明確に観点を示し具体的に評価させるようにしたい。

時間の確保を意識したが、設定時間の中で書き終わらない生徒が多くいた。結局、早く終わった生徒で表紙や綴じ込みを行うことになってしまった。年間指導計画の見直しを図り十分な「書く」活動時間を確保したい。

〈生徒のノートから〉

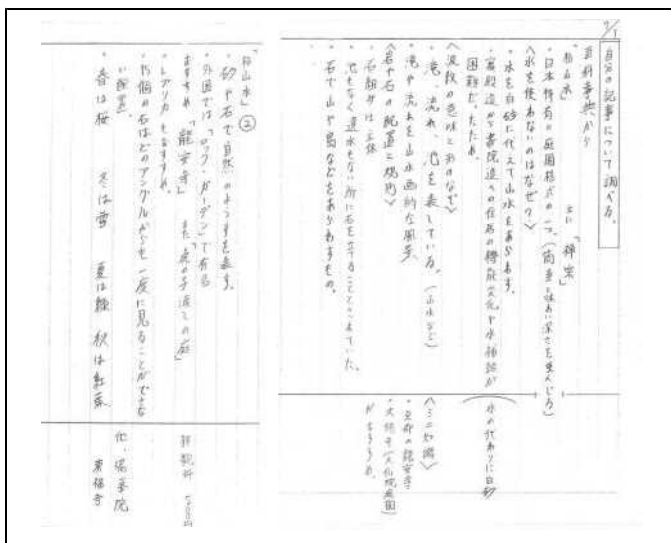
(資料5) 〈振り返り欄の活用〉



(資料6) 〈自分の題材から思いつくこと〉



(資料7) 〈調べ学習メモ〉



(資料8) 〈1人分のページ完成作品〉



5 実践事例2 「説得力のある文章を書こう『観察・分析して論じよう 批評文』」

(1) 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、対象を客観的・分析的に見つめ、比較し判断を下す手法を学び批評文を書くという活動を位置づけた。日常生活の中でごく普通に行っている批評を書き手の主観で行うのではなく判断や評価の根拠を明確にして書くことで、「論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと（書くこと）B（1）イ」を確実に実現できるようにしている。

(2) 単元について

ア 生徒観（男子18名 女子18名 計36名）

「書くこと」に関する事前アンケート調査結果（H26.10.3 3年3組 35名実施）	
問1 文章を書くのは好きですか。	①好き…7名 ②どちらかというと好き…12名 ③どちらかというと嫌い…10名④嫌い…6名
問2 問2の答えの理由を書いてください。（複数回答可） 「好き」「どちらかというと好き」	①自分の考えが書けるから…7名 ②書くことが浮かぶようになったから…3名 ③書くことが好きだから…3名 ④口で伝えるのが苦手だから…2名 ⑤人の文章を読むのも楽しいから…2名 ⑥構成が分かるようになったから…1名 「嫌い」「どちらかというと嫌い」
①書く内容が浮かばない…5名 ②自分の考えがまとまらない…4名③長文が書けない…3名 ④内容を絞れない…3名⑤面倒くさい…2名	
問3 文章を書くときに困ったり迷ったりするのはどんなときですか。	①書き出し…5名②文字数…4名③表記…4名④書く順序…3名 ⑤思いつかない…3名 ⑥接続詞などの文法…2名 ⑦全体的に…1名
問4 意見文を書くときに事実や根拠、意見などの違いを意識していますか。	①意識している…8名 ②どちらかというと意識している…16 ③どちらかというと意識していない…7名④意識していない…4名

事前アンケートでは、書くことについて「好き」「どちらかというと好き」と回答した生徒が19名とやや増えている（6月時17名）。一方で、書くことに対する苦手な点は6月と変化があまり見られない。また、事実や根拠、意見の違いを意識していない生徒も多い。書くことへの抵抗は低くなっているが、文種の違いや構成の仕方などの手法がまだ身についていないと考えられる。

イ 教材観

本教材は、学習指導要領「書くこと」B(1)イ「論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと」を受けている。対象を観察・分析し判断する手法を学び、それを批評文で表すものである批評を書き手の主観で行うのではなく、対象を客観的・分析的に見つめ、判断や評価の根拠を明確に示して書き、またそれらを交流することで説得力のある文章を書く力につながる教材である。

ウ 指導観

指導に当たっては、説得力のある批評文を書かせるために、初めて取り組む批評文とはどんな文種であるかを十分理解させたい。そのために単元の冒頭で批評文と意見文の違いをしっかりとらえる活動を取り入れる。批評文とは批評する対象をただ単に好き嫌いで批評するのではなく観察・分析・比較して自分なりの判断を下すことで説得力を持った文章であることを実感できるようにする。自分なりの観点をもって批評することは、今後の日常生活の中でも様々な場面で行われるものである。社会に出て役立つ学習であるということを意識させるためにも、チョコレートの販売促進ポスターを企画するという設定で、主体的に学習に取り組ませていきたい。

(3) 単元の目標

- 批評文を書くことに意欲をもち、進んで批評の対象について観察・分析したり、比較したりして、自分なりの判断を下そうとしている。（国語への関心・意欲・態度）
- 論理の展開を工夫し、資料を参考にしたり引用したりして、説得力のある批評文を書くことができる。（書くこと）
- 既習の語句や表現・漢字を書く活動において的確に活用することができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する技能）

(4) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
チョコレートのポスターについて、自分の考えをもち、観察、分析をし、批評文を書こうとしている。	取材や資料から得た情報を元に、構成メモを作り、適切に引用しながら批評文を書いている。	読み手に自分の考えが伝わるように既習事項を生かして適切な語句を選択して書いている。

(5) 指導と評価の計画 (5 時間扱い)

次	時	主な学習活動	評価規準
1	1	○学習目標を確認し、計画を立てる。 ・学習活動の見通しをもつ。 ・「はじめの一步」に取り組み、対象を観察することを学ぶ。	・活動計画を作成し、批評文を書くことへの意欲をもっている。(国語への関心・意欲・態度)
	2 (本時)	○批評文と意見文の違いや特徴、構成について考え、理解する。 ・批評文と意見文を読み比べ、批評文の特徴を理解する。 ・批評文の構成の特徴をマイボトルのポスターの批評文を使って確認する。	・批評文と意見文の違いや特徴、構成について考え、理解している。(書く能力)
	3	○批評文の書き方やポイントを確認し、チョコレートの販売促進ポスターを観察・分析して構成メモを作成する。 ・批評文に説得力を持たせたり、評価したりするためのポイントを確かめる。 ・各ポスターを観察して特徴を書き出す。	・批評文を書く手順や説得力をもたせる書き方、評価のポイントなどを理解しポスターを観察・分析して構成メモを作成している。(書く能力)
	4	○チョコレートの販売促進ポスターを観察・分析して構成メモを作成し、批評文を書く。 ・ポスターにとって重要だと思うことを観点として決めて選び批評文を書く。	・観察・分析と観点を踏まえ、説得力のある批評文を書いている。(書く能力) ・正しい表記の仕方に従って批評文を書いている。(言語についての知識・理解・技能)
	5	○完成した文章を読み合い、自分の文章表現に生かす。 ・グループで批評文を読み合い評価する。	・書き方や内容につき、気づいたことなどを挙げている。(書く能力)

(6) 本時の指導

ア 目標

- ・批評文と意見文の違いや特徴、構成を考え、理解することができる。(書くこと)

イ 準備・資料

- ・教科書①
- ・学習の流れ揭示資料②
- ・意見文と批評文の例テキスト③
- ・ワークシート④
- ・揭示用マイボトルポスター批評文⑤
- ・自己評価カード⑥

ウ 展開

- ・支援の手立て ○研究テーマに迫る手立て ◎評価 (B 規準)
- ㊦…Aの生徒への手立て ㊧…Cの生徒への手立て

学習活動・内容	支援の手立てと評価
1 本時の学習課題を確認する。 ①②【一斉】 批評文と意見文の違いや特徴について考えよう。	・本時は、批評文を意見文を比べることを通して、批評文の特徴を考える活動をするを知らせ、意欲が高められるようにする。 ・「学習の流れ」を揭示し、見通しをもって活動できるようにする。
2 批評文と意見文の違いを考える。②③【一斉】 (1) 資料テキストをワークシートを配付し、意見文の特徴と批評文の特徴を考える。 (予想される解答例) ・意見文＝賛成か反対かが書いてある。 ・批判文＝良い所と悪い所が書いてある。 (2) それぞれの特徴から、共通点と相違点を考える。 (予想される解答例) ・共通点＝自分の考えを述べている。 ・相違点＝批評文は、自分の意見だけでなく、客観的な事実を述べ、比較している。	・それぞれの文章の特徴を把握し、客観的に評価・検討できるように助言する。 ・自分の考え(主観)だけでなく、客観的な意見を述べていることに気付くようにする。 ・グループは4人を基本とする。 ○友達の考えを聞きながら、分析の観点や評価の違い

3 批評文と意見文を比べて、自分の考えを書く。 ②③【小グループ】 (1) ワークシートに記入したことをもとに、二つの文章を比較して、自分の考えを書く。 (2) グループで考えを伝え合う。 (3) グループごとに発表し学級全体で考えを交流する。 4 批評文の構成について考える。④ 【一斉】 ・マイボトル利用を進めるポスターの批評文を読み、全体の構成を考える。 4 本時の学習を振り返り、自己評価をする。 5 次時の学習内容を知る。	いなどを考えられるよう支援する。 ・意見文との比較で気づいた批評文の特徴を元にマイボトル利用を進めるポスターの批評文を読んで全体の構成を考えるようにする。 ・批評文を書くためにはどんな手順が必要か考えるよう促す。 ○手順がわからない生徒には教科書を参考にすることを伝える。 ◎意見文と批評文の違いや構成について考え、理解することができたか。(書くこと) (発表・観察・ワークシート) Ⓐ 自分の考えだけでなく友達のことを聞いてより具体的に批評文の特徴や構成を理解できるよう助言する。 Ⓒ 意見文と批評文との違いや構成について具体的に比較すべき部分を知らせたり、ワークシートに書くよう助言したりする。 ・批評文は「批評の対象の特徴をとらえ、そのもののよさや特性、価値などを根拠を明らかにして論じる文章」であることを確認し、自己評価カードに記入する。 ・本時の学習の取り組みを称賛し、次時の学習内容を予告する。
--	---

(7) 指導の実際

- ・導入の段階で2年生の時に書いた意見文の作品を提示し、既習事項を振り返ることで関心をもたせるようにした。
- ・生徒の実態として、批評文とはどんな文章なのかがよくわかっていないということが挙げられるので、まず批評文とはどんな文章なのかを考える活動を取り入れた。簡単な批評文と意見文の違いを考え話し合わせることで、批評文について関心をもたせ、理解させた。
- ・批評文と意見文の違いを自分で考えてから小グループでの話し合いにし、意見を交流しやすくした。(資料9, 10)
- ・学習カードを活用し、単元の見通しをもたせるとともに毎時間の学びを振り返るようにした。

《授業の様子から》

(資料9)



(資料10)



(8) 成果と課題

2年生で学習したの意見文の書き方や実際の作品を振り返り既習事項を確認したことは、単元の導入として生徒が理解しやすかったように思う。

意見文と批評文の比較は、わかりにくく感じた生徒が見られたが、グループでの考えの交流のおかげでスムーズに理解できた。(資料12)しかし、批評文が簡単すぎて考えが深まらなかった。例文の吟味をさらにする必要があった。また、例文の掲示物を授業の途中で外してしまったので、最後まで掲示し、批評文の構成を考えるときにもっと活用すべきであった。

学習カードで単元の計画を確認はしたが、教室の掲示物として常に単元全体を見通して今はどの学習をしているのかがわかるようにするとよかった。(資料 11)

批評文を書いてから推敲する時間がなく、そのまま読み合いになってしまったので、推敲の時間を確保すべきだった。

《學習カード》
(資料11)

《批評文と意見文の比較ワークシート》
(資料 1 2)

5	批評文を読む合おう	完成した批評文を読む合おう	ふり送り
4	批評文を書く。	構成メモを完成させる 批評文を書く	ふり送り
3	観察分析して構成メモを作成しよう。	批評文の書き方を確認する コロコロト新商品のホスターを観察・分析する。 構成メモを作成する	ふり送り
2	批評文と意見文の違いや物致について考えよう。	意見文と批評文の違いについて話し合うことになった。違いは観察分析があるかないかということ。批評文も書き方があること。かわりだ。観察する。ホスターの書き方は3りかな。	ふり送り
1	学習計画を立てて見通しをもとう。	学習の見通しをもつに「はじめの一步」に「む	OK
☆	学習計画・振り送り	活動内容	
	目標 批評の対象について、観察・分析したり、比較したりして自分なりの判断を下す。 論理の展開を工夫して、資料を参考にしたもの、引用したりして説明したりして、説得力のある批評文を書く。 書いた批評文を読み合って評価し、その見方や考え方を深める。		
	観察・分析して論じよう（批評文）	名前（木名）類案	

[illegible]

(資料 13) 《チョコレート新商品ポスター観察・分析ワークシート》

自分の考えた観点から選んだボスラを文字・絵・構図の点から観察した内容を、下の枠内に書きましょ。

構図

- 全体白地に落着くいい色やデザイン。
- 左右対称。

絵

- 色・明確さ・配置
- イラストを何枚か空想を伴っている。
- 白い布の茶色の紐コサが材料感あり。

文字

- キャッチコピー・書体
- 書体を明朝体に統一している。
- ポロレットのことを空想と言っている。

観察・分析

高概念

- シヤワで大人かなイメージを持つ。
- リアルをリアルに見える。
- ポロレットが引立っている。
- 大人っぽいイメージを持つ。
- 高級感が出ている。

あなたの考えた観点からどんな点々が文字・絵・構図の点からいいと思ったのですが、述べたことを基に理由を書きましょ。

《マイボトル推進ポスター批評文》
(資料14)

A.4 30 × 21A4 29 x 31

《チョコレート新商品ポスター批評文》
(資料15)

A 4 20 x 20

14. 20 x 20